

# やまがた認知症カフェ通信 2017 3月号

平成29年3月15日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

## 特集 山形県認知症・相談交流拠点さくらんぼカフェ 2年間のあゆみ

### さくらんぼカフェ2年間の活動報告

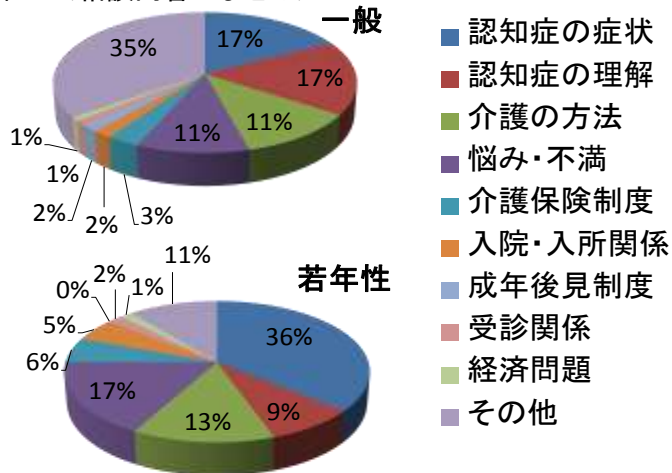
さくらんぼカフェに皆さんをお迎えして、2年目の春を迎えています。これまで皆さんからお受けした相談の件数や内容について、状況をご紹介します。相談件数は、平成27年度は812件だったのに対し、平成28年度は2月までで1,136件となり、4月から翌年2月までの同月比で見ると1.5倍に増加しました。年齢区分で分けると、若年性認知症の相談が1.7倍と増えています。さくらんぼカフェの存在が県内に浸透していることと、若年性認知症支援コーディネーターの配置の効果が結果に表れているのではないのでしょうか。相談方法別に見ると、相談全体に占める面接の割合が、平成27年度51%(414件)から平成28年度60%(682件)へとアップしています。このことから分かるように、昨年度と比べて、電話よりも、実際にさくらんぼカフェに足を運んで下さる方の数は確実に増えているようです。(図1)

次に、相談内容別に見ると、2年間を通じて、一般の方・若年性認知症の方とも、認知症の症状や理解、介護方法、悩みや不安に関するものが多くなっています。また、一般でのその他の相談において、特徴的な内容は「カフェを開きたいがどうしたらよいか」との相談でした。(図2)県内の「認知症カフェ」は、平成28年12月10日現在64か所できていますが、さくらんぼカフェに来られた方がより身近な地域のカフェを利用できるよう、県内のカフェをサポートして行きたいと思っています。(山名)

図1 <相談件数>

年齢区分	H27年度			H28年度 (4~H29.2月)			H27・H28 同月比
	電話	面接	合計	電話	面接	合計	
一般	324	340	664	358	537	895	+273 (1.4倍)
若年性	74	74	148	96	145	241	+103 (1.7倍)
合計	398	414	812	454	682	1,136	+376 (1.5倍)

図2 <相談内容のまとめ>



### さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします!

### 「ウイークエンドカフェ」を開催してみよう

平日はなかなかご利用いただけない方々にもおいでいただければと、この冬2回、週末オープンのカフェを開きました。平日より多いスタッフで、皆さんをお迎えしました。テーブルで一緒した方同士お話しされる方々や、畳のコーナーでちゃぶ台によりかかり、日頃の悩みをスタッフに相談されている方がいらっしやったり、また、若年性認知症のご夫妻同士が一つのテーブルでお話されていました。お互いの趣味の話に花が咲き、「さくらんぼカフェで今度エプロン作ってはどうか。その時胸にさくらんぼの絵を書いてもいいね。」「今は、そういう絵を布にプリントしてくれるよ...。」と情報提供する奥様。ご主人が「趣味は写真」と言うと、「それでは見せてほしい」となり、持参のカメラからご自慢の風景写真を披露し、みんなで鑑賞しました。ある女性の方は、ほっとした表情で着席し、お茶を一服していました。お忙しいようで、お話の時間が足りない様子で帰られました。それぞれのテーブルに「悩み相談」「趣味の話」「まずは休息欲しい人」と、色んな話の花が咲いた午後のひとときでした。また皆さん、お出で下さい。お会いしましょう。(スタッフ一同)

■問合せ: さくらんぼカフェ ☎023-687-0387(平日 昼12時~午後4時)

## カフェ七色—新庄市—

山形県では認知症カフェの県内普及を目指し「さくらんぼカフェ(常設)」を開設しました。「認知症の人と家族の会山形県支部」に委託し、さくらんぼカフェ(村山)に来られない人向けに、出張交流会を開催しています。カフェ七色は最上地域で開催している「出張交流会」です。県としては、「家族の会のつどい」から「認知症カフェ」への展開を考えていましたが、最上では、それまで「家族の会のつどい」が開催されておらず、何もなかったところからの立ち上げでした。「カフェ七色」は、オランダの認知症カフェをイメージしています。開設時には、100円商店街の方に協力してもらい、場所は、NPO—

AMPの貸しカフェ、スタッフは専門職ボランティア(看護師・OT・管理栄養士・ケアマネ・社会福祉士など)を中心に活動しています。参加者はどなたでもOKで、毎回、プログラムを変えるようにしています。初回参加時には、認知症介護の精神的な負担、行政への不満など訴えていた方が様々な家族、専門職との関わりによって穏やかになった方もいます。「カフェ七色」は、当事者、介護者、専門職、地域の方の出会いの場所になっています。今後も、最上地域で「認知症カフェ」が地域の社会資源として根付いていけるように育てていきたいと思っています。

■問合せ：認知症の人と家族の会 山形県支部

☎023-687-0387



### ■基本データ

運営母体	「認知症の人と家族の会山形県支部」 ～山形県認知症相談・交流拠点 さくらんぼ カフェ(山形県委託)～出張交流会
場所	カフェ七色(NPO—AMP貸しカフェ) 新庄市
開設時間	平成27年度 2ヶ月1回土曜日13時～15時 (ウィークエンド・カフェ) 平成28年度 月の最終水曜日18時～20時 (ナイト・カフェ)
対象者	最上地域の何方でも(県委託事業～出張交流会) 当事者・家族・地域の方・専門職など
利用料金	基本無料
飲食メニュー	コーヒー、紅茶、緑茶(ホット・アイス)
内容	栄養補助食品試食・スライドを使用した勉強会・七夕の短冊へ願い事記載・折り紙・介護相談
スタッフ	ケアマネジャー・作業療法士・管理栄養士・社会福祉士・看護師(専門職ボランティア) 認知症地域支援推進員(協力)
連携機関	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、認知症の人と家族の会山形県支部
宣伝・広報	地域包括支援センター、新庄市福祉事務所

## まずはカフェから

真室川町認知症地域支援推進員（保健師）  
真室川町福祉課

### 斉藤千宗（さいとうちひろ）さん ー真室川町ー

今年度に町で初めて小学生3・4年生への認知症サポーター養成講座を行いました。子どもたちの中には認知症を知っていたり、高齢者への接し方も心得ている子がいたり、身近に高齢者が多くいるこの町の強みを感じました。

また、介護の一次予防事業にも携わっていますが、認知症を予防したいという意識の高さは多くの高齢者から感じています。さらに認知症サポーターの人数も順調に増員中！

しかし、家族に認知症が発症したり、知り合いがそうなったときに「つきつい言い方をしてしまう」「物を盗られたと言われたらいやだから、距離を置いている」といった、実際の場面で上手いかないという声も多く聞かれています。

このような状況のなか、高まっている認知症への関心を認知症の方を支える力に変えられないかと日々考えながら住民と関わっています。今年度、住民との関わりの中で、地域の実情を聞くことができたり、認知症についてみんなで考える機会がありました。来年度は、認知症カフェを開催して、みんなで認知症について話せるような機会を作れるようにしたいと思います。住民みんなが参加して、無理せず息の長い取り組みにしていきたいと考えています。

（編集部より）今年度の締めくくりは、真室川町認知症地域支援推進員の斉藤さんです。斉藤さんは、子供から高齢者まで幅広い層に対し、認知症理解のための啓発活動に取り組んでいます。来年度は、認知症カフェの開催を目指しているということで、認知症地域支援推進員としての活躍が益々期待されます。



## めざせ！カフェマスター

認知症カフェを極めたいあなたに、ママ知識を紹介します。

## 認知症カフェの雰囲気づくり

認知症カフェに限らず一般的に「カフェ」と言うとどんなイメージが浮かぶでしょうか。おしゃれなインテリアと心地良い BGM が流れる空間で、コーヒーを飲みながら、ひとりで、本を読んだりスマホをいじったり、又は友達とおしゃべりしたりして、リラックスしながら過ごす場をイメージしませんか？認知症カフェも、自宅でもなく病院・施設の相談室でもない、居心地の良いおしゃれな空間・雰囲気をつくる必要があります。自宅とは違う、居心地の良いおしゃれな空間が、認知症の方にとって良い刺激となります。しかし、多くの認知症カフェは、公民館や病院・施設の一室を利用している場合が多く、カフェのおしゃれ感を出すために、苦勞しているようです。では、このような空間・雰囲気を作るにはどのようにすると良いのでしょうか。

浅岡雅子氏によると、①店内が清潔に整えられていること（清掃・整理整頓）、②店内がカラフルにコーディネートされていること、③素敵なお小物が置いてあること（テーブルクロス・お花等）、④スタッフの服装（身だしなみ・お揃いのエプロン）や言葉づかいからおもてなしの心が伝わってくること、⑤店内に入れたてのコーヒーなどの良い香りが漂っていることを挙げています。また、カフェで流れる音楽も重要です。カフェの音楽は会話を促進させてくれるような音楽が良く、歌い出したくなるような音楽は不向きなようです。会話の邪魔にならない心地良い音楽は、脳をリラックスさせてくれるそうです。このような、おしゃれな空間・雰囲気づくりは、スタッフのセンスが問われます。簡単にできる事からはじめ、認知症の方や地域の方がまた来なくなる演出をしてみましょう。





新規オープンカフェ

YYサロン(山形市)

- 日時: 3月23日(木)・4月27日(木) 11:00~15:00  
※出入り自由  
※原則毎月第2・4木曜日、上記時間で開催予定
- 場所: 個人宅(山形市若葉町10-18)
- 対象者: どなたでも
- 参加費: 200円 ※飲み物とおやつを用意しています。お昼ご飯が必要な方は持参してください。
- 問合せ: 安達 ☎090-1691-1994

カフェ情報

コミュニティカフェすみれ(山形市) 旧認知症カフェおらんだ

- 日時: 毎週土曜日 14:00~16:00
- 場所: ケアプランセンターすみれ 生活塾  
(山形市城西町5丁目1-7)
- 対象者: どなたでも  
※お車で越しの場合のみ要連絡
- 参加費: 100円
- 問合せ: NPO法人すみれ会 ☎023-664-0168

お茶っこカフェ(米沢市)

- 内容: 「いきいき楽しく認知症予防体操」  
ピアノの生演奏があります。
- 日時: 3月25日(土) 10:15~12:00  
※次回は5月開催予定
- 対象者: どなたでも ※要申込み
- 場所: すこやかセンター3階音楽室(米沢市日大通1丁目5-60)
- 参加費: 300円
- 申込み・問合せ: 米沢市立病院 患者支援センター  
☎0238-22-2450

イベント情報

認知症サポーター養成講座(米沢市)

- 日時: 毎月第2・4木曜日 13:00~15:00
- 場所: 茶飲み場「よつてくだい」  
(米沢市直江町8-5 デリシャス SHOWTEN 内)
- 定員: 15名(受講人数については応相談)
- 受講料: 無料
- 申込み・問合せ: NPO法人 フューチャー倶楽部  
介護人材確保等事業連絡協議会 事務局  
☎090-6458-5690

認知症施策推進協力員の藤井が皆さまのモヤモヤを解決するコーナー

「認知症地域支援推進員」の活動と認知度



「認知症地域支援推進員」は、認知症の人にやさしい地域づくりのための専門職で、平成29年度末までに全ての市町村に配置されることになっています。具体的な活動としては、①医療・介護等のネットワーク構築(必要な医療や介護が受けられるよう関係機関との連携体制づくり、認知症ケアパス作成等)、②対応力向上のための支援(関係機関と連携し事例検討会や認知症カフェ等の企画調整等)、③相談・支援体制構築(相談会、地域ケア等)の活動と多岐に渡りますが、主には地域で不足する分野を補っていくイメージでしょうか。

では、カフェに関わっている推進員はどの位いるのでしょうか。厚生労働省の事業で推進員1,071人を対象にした平成27年度の全国調査によると、市町村からカフェの開催を「役割・業務」として求められている推進員は595人で56%と、半数を超えます。次に、関わり方で見ると、「カフェへの参加」が515人で48%、「カフェの企画」が202人で11%でした(重複回答可)。カフェに参加する推進員は半数位ですが、カフェの立ち上げや、内容の企画などに積極的に関わっている推進員はまだ少ないようです。

では、県内での推進員の認知度はどうでしょうか?今年度、置賜・庄内の各地区で開催した「かかりつけ医向けの認知症対応力向上研修」で行ったアンケート調査によると、参加者全60人に対し、50%の医師が「推進員を知らない」と回答しました。医師から見た推進員の認知度は、まだまだ低いようです。推進員を知ってもらうためにも、認知症の人と家族・地域住民・専門職が集う、認知症カフェを開催してみたいかがでしょうか。

発行元

山形県認知症相談・交流拠点  
さくらんぼカフェ  
TEL023-687-0387  
FAX023-687-0397  
皆さまのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集後記

病気になると誰もが悩みますよね。本人はもとよりご家族も。どんな病気でも同じですが、認知症の場合も「ひとりで悩まないで」ほしいのです。少しずつですが、認知症になっても住み慣れた良い環境で暮らすことの意味が理解されてきています。だからこそ「カフェ」に足を運び、語り、聞き、「今できること」をみんなで楽しく過ごす時間を拡げていきたいのです。新たな「カフェ」誕生は希望と絆です。カフェ通信も来年度は気持ちを新たに、5月号から発行予定です。(五十嵐)